

ホームページのご案内

当社ホームページには、会社概要や事業内容、プレスリリースといった基本情報はもちろん、環境・CSRの取り組みやキッズ向けページなど、石油・天然ガスに関する幅広いコンテンツをご用意しています。

また、文字拡大・縮小機能や印刷ページ、お問い合わせフォームを設けるなど、使いやすさにも配慮しています。

株主・投資家向けIRサイトでは、決算や過去の投資家向け資料だけでなく、個人投資家の皆様向け情報や、関心の高い原油価格・為替などの情報、用語集、さらにプレスリリース時などにメールでお知らせする配信サービスも行っています。是非一度ご覧ください。

URL: <http://www.inpex.co.jp/> **INPEX** **検索**



コーポレートサイト

IRサイト

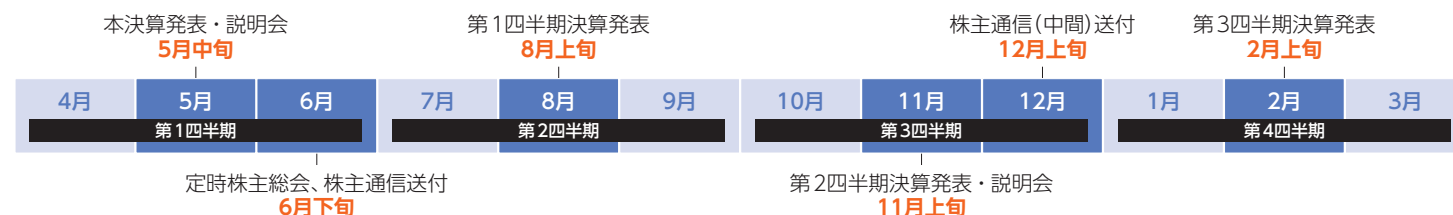
上場株式の配当金に関する「源泉徴収税率」変更のご案内

2014年以降、上場株式の配当金には、復興特別所得税を含め、**20.315%の源泉徴収税率が適用されます。**

2014年以降、上場株式の配当金には、復興特別所得税を含め、 20.315%の源泉徴収税率が適用されます。
<p>～ 2013年12月31日</p> <p>10.147%</p> <p>内訳 所得税 7% + (*1)復興特別所得税 0.147% 住民税 3%</p>
<p>2014年1月1日～ 2037年12月31日</p> <p>20.315%</p> <p>内訳 所得税 15% + (*2)復興特別所得税 0.315% 住民税 5%</p>
<p>2038年1月1日～</p> <p>20%</p> <p>内訳 所得税 15% 住民税 5%</p>

(*1)7%×復興特別所得税率2.1% = 0.147% (*2)15%×復興特別所得税率2.1% = 0.315% ◎その他詳細につきましては、所轄の税務署へご確認ください。

IRカレンダー



以上のほか、プロジェクトなどに関する事業説明会や、個人投資家向け説明会などを、随時実施しています。

●見通しに関する注意事項

この「事業活動のご報告」に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化などにより変動する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

●2008年度から、金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されましたが、この「事業活動のご報告」では株主の皆様の利便性を考慮し、第2四半期(9月末)及び第2四半期まで(4月～9月)の累計数値について、「中間」と記述しております。

国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION
〒107-6332 東京都港区赤坂5-3-1
TEL : 03-5572-0234 (IRグループ)
URL: <http://www.inpex.co.jp/>

UD FONT
by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

ミックス
責任ある水資源管理
を使用した紙
FSC
www.fsc.org
FSC® C022915

VEGETABLE
OIL INK

この報告書は、
針金を使わない
「ECO縫じ」にて
製本しています。

Energy for a Bright Future

明るい未来を拓くエネルギー

事業活動のご報告

2013.4.1 >>> 2014.3.31

Contents

- 01 INPEXについて
- 03 トップメッセージ
- 07 **特集1** 海外・国内の主要プロジェクトの現況
- 11 **特集2** 社員が紹介するイクシスLNGプロジェクトの今

- 12 インフォメーション
- 13 トピックス
- 15 連結財務諸表
- 17 会社概要
- 18 株式の状況

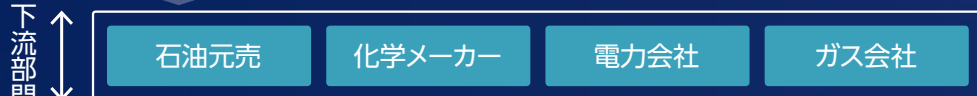
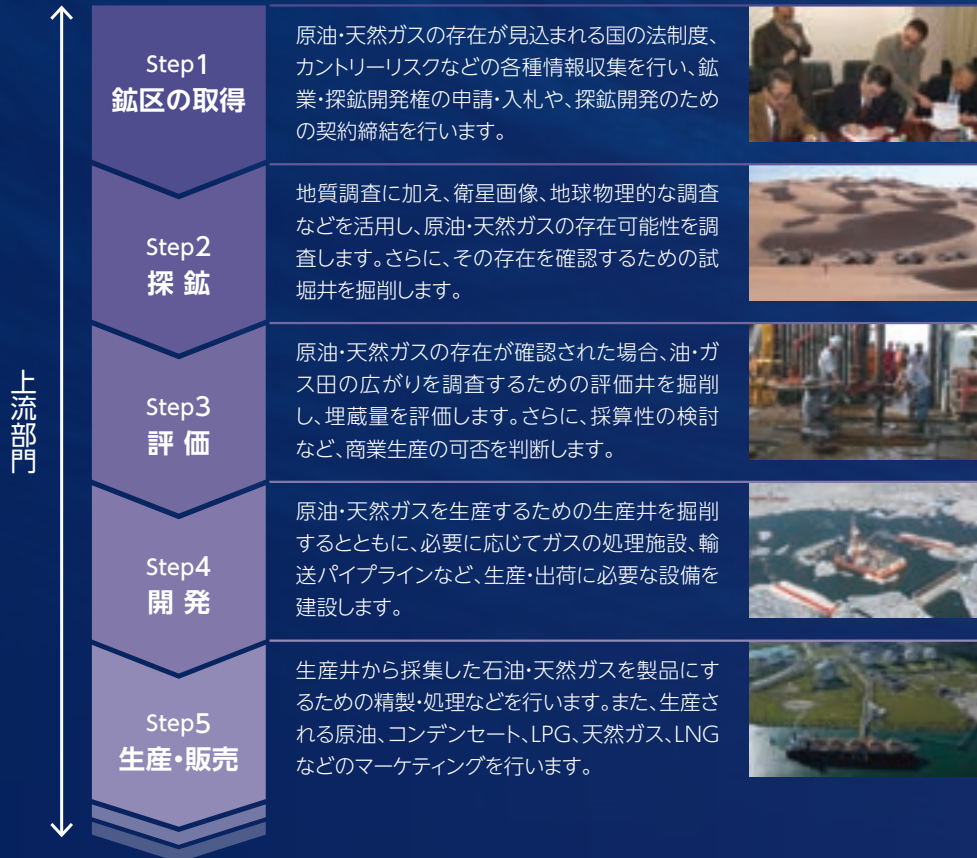
安定的・効率的なエネルギー供給を実現する 石油・天然ガス開発の国内トップ企業です。

当社は、世界28カ国で79のプロジェクトを展開する日本最大の石油・天然ガス開発企業です。
大型LNGプロジェクトのイクシスを筆頭に成長戦略を推し進め、
メジャーに次ぐポジションである上流専門企業のトップクラスを目指します。

全世界で展開する
28カ国 79プロジェクト
(2014年3月末時点)



INPEXの事業の流れ



Special Feature

海外・国内の主要プロジェクトの現況

日本のエネルギー安定供給のために

A~Eのプロジェクトの進捗につきましては7ページから始まる特集1で紹介しています。

特集1

▶P7

埋蔵量 **44.8** 億バレル
※確認埋蔵量及び推定埋蔵量の合計

生産量 **40.9** 万バレル/日

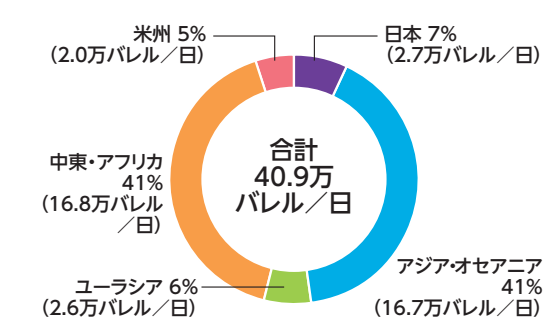
Measures for Growth

3つの成長目標

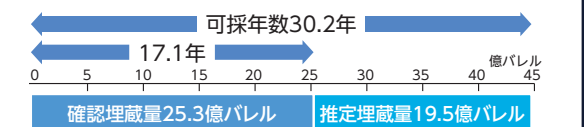
- 1 上流事業の持続的拡大**
上流専門企業のトップクラスを目指して
▶2020年代のターゲット
2020年代前半にネット生産量
日量100万バレル達成
- 2 ガスサプライチェーンの強化**
ガスビジネスのグローバル展開を目指して
▶2020年代のターゲット
長期的に年間30億m³の国内ガス供給量の実現
を目指し、2020年代前半に25億m³を達成
- 3 再生可能エネルギーへの取り組み強化**
社会に貢献する総合エネルギー企業を目指して
▶2020年代のターゲット
次世代の成長を見据えた研究開発、
事業化の取り組みを強化

原油・天然ガスの生産量及び埋蔵量

■ 地域別ネット生産量 (2013年4月~2014年3月) ※原油換算



■ 原油・天然ガス埋蔵量 (2014年3月末) ※原油換算



ネット生産量は、自然減退によりチモール海共同石油開発地域 (JPDA) のキタン油田等で生産量が減少した一方、アブダビのADMA 鋳区等からの生産量増加により、前期と比較し、ほぼ横ばいとなりました。
埋蔵量は、ADMA 鋳区上部ザウム油田の権益延長により、確認及び推定埋蔵量の合計は前期と比較し、約9%増加の約44.8億バレルとなりました。

トップメッセージ

01 2014年3月期の業績、事業活動を振り返って



代表取締役社長
北村 俊昭

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2014年3月期の当社グループの業績は、原油及び天然ガスの価格は下落しましたものの、円安により、連結売上高は前期比9.7%増加の1兆3,346億円と、過去最高となりました。また当期純利益は前期比7億円(0.4%)増益の1,836億円と、過去2番目の高水準となりました。

2014年3月期は、2012年5月に策定した「INPEX中長期ビジョン」について概ね順調な進展があり、それぞれの目標達成に向けたマイルストーンに沿って、大きな前進・手応えのある2年目であったと受け止めております。

3つの成長目標のうちの第一の柱である「上流事業の持続的拡大」については、イクシスという大型LNGプロジェクトを中心に積極的に取り組んでおり

ます。イクシスLNGプロジェクトは、日本企業で初めて当社が操業主体(オペレーター)として進めているものですが、生産施設の建設を開始してから2年目に入り、オーストラリア内外で開発作業が本格展開中であり、2014年3月時点の作業進捗率が約44%と、順調に進捗しております。また、イクシスLNGプロジェクトに続くアバディLNGプロジェクトについても、昨年度より継続している基本設計(FEED)作業のうち、海底生産施設のFEED作業は本年1月に既に終了し、フローティングLNGのFEED作業も本年半ば頃を目途に終了する予定です。

また当社グループは、生産プロジェクトとして、アラブ首長国連邦アブダビ海上鉦区にて5つの原油生産プロジェクトに参画しておりますが、アブダビ政府はこのうち上部ザクム油田の権益期限を2041年12月末まで15年余延長することを決定しました。ま

た、財務条件の改善も実現しました。現在この油田の生産能力を、日量75万バレルに拡大するための開発作業を進めております。これらにより当社グループのネット生産量及び確認埋蔵量が増加し、中長期ビジョンに掲げる成長目標の柱である「上流事業の持続的拡大」に向けて大きく前進することとなります。

探鉱プロジェクトについては、当社の中核的地域である豪州・アジアなどのコアエリア、埋蔵量のポテンシャルの高いホットエリア、これまであまり開発のされていないフロンティアエリアの3つのエリアを重点エリアとして取り組んでおり、それぞれイクシス周

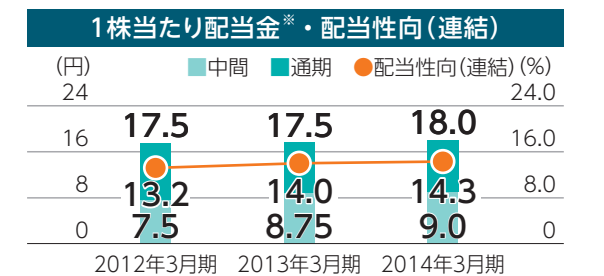
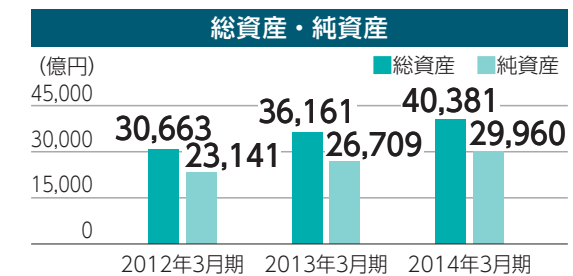
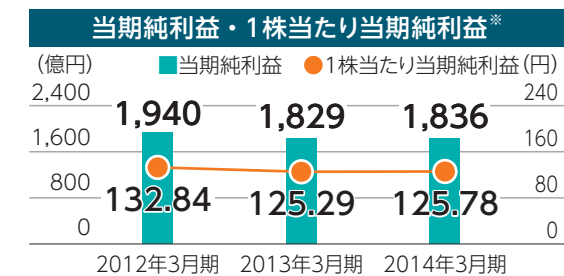
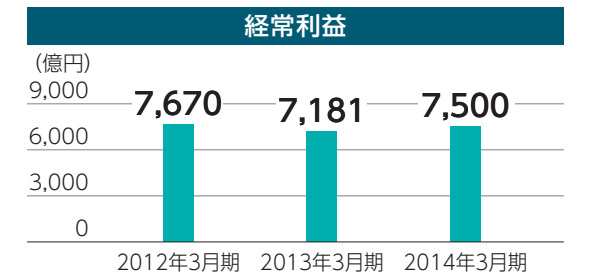
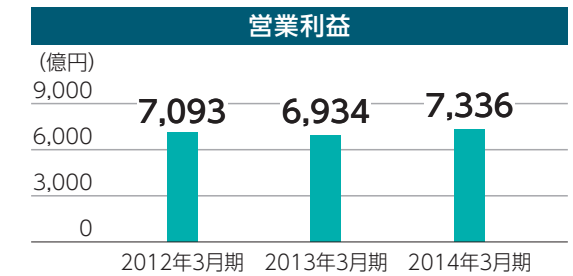
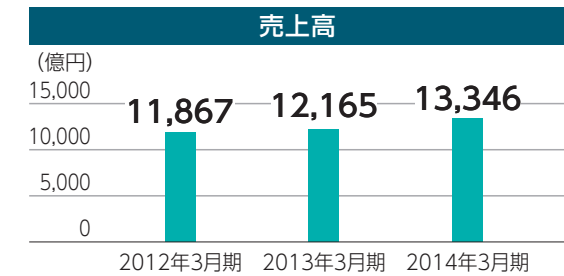
辺エリア、ウルグアイ、グリーンランドにて探鉱プロジェクトの権益を取得しました。

第二の柱である「ガスサプライチェーンの強化」については、大きな成果として、直江津LNG基地が完成し、当初の予定よりも早く2013年12月から操業を開始しました。同基地の完成により、当社の国内における天然ガス供給能力及び安定供給体制が一層強化されます。

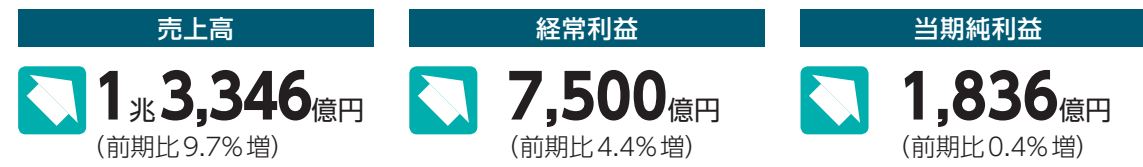
第三の柱である「再生可能エネルギーへの取り組み強化」については、2013年4月に「INPEXメガソーラー上越」が竣工するとともに、本年3月には当社グループとしては2件目となる太陽光発電所を建設す

ることを決定しております。また、秋田県及び北海道の地熱プロジェクトにおいて調査井を掘削し、概ね良好な結果が得られました。

以上の3つの成長目標の実現に向けた取り組みに加えて、これを支える事業基盤の整備の取り組みについても進展がありました。具体的には、2013年5月に国内天然ガス供給事業に係る体制強化を目的に「天然ガス供給本部」を設置したほか、原油やLNGの売買業務及び船舶などによる輸送業務の強化などを目的に、2014年1月にシンガポールに現地法人を設立するとともに、現地事務所を開設しております。



連結業績ハイライト



為替の影響などにより売上高については増収、当期純利益は若干の増益となりました。

* 2013年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき400株の割合で株式分割を行っております。各年度の1株当たり純利益及び配当金は、当該株式分割の影響を考慮した遡及修正後の金額となっております。

トップメッセージ

02 2015年3月期の業績見通し及び配当について

2015年3月期の業績予想につきまして、販売量はやや増加を見込んでいるものの、原油価格を2014年3月期実績より低い前提としたことから、売上高は1兆3,310億円とやや減収、当期純利益は売上原価の増加や探鉱費の増加などにより1,710億円を見込んでおります。

2014年3月期の期末配当金につきましては、1株当たり9円、通期では2013年3月期の17.5円^{※1}より微増の1株当たり18円とさせていただきます。

2015年3月期の配当につきましては、中長期的

な企業価値の向上と、株主の皆様への還元とのバランスを図っていくという基本方針に沿い、2014年3月期の水準を維持したいと考えています。具体的には、2015年3月期の中間及び期末配当金は、前期と同様の1株当たりそれぞれ9円、通期で18円を予定しています。将来的にイクシスが生産を開始する時期からは、海外の石油・天然ガス開発専業企業トップクラスの水準を意識しながら、適切な株主還元を図ってまいります。



アバディ第4次掘削キャンペーン掘削リグ

2015年3月期の業績見通し ^{※2}	
売上高	1兆3,310億円(前期比0.3%減)
経常利益	6,940億円(前期比7.5%減)
当期純利益	1,710億円(前期比6.9%減)
1株当たり配当金	中間9円/株 期末9円/株

※1: 当社は、2013年10月1日付で普通株式1株につき400株の割合で株式分割を行いました。
1株当たり配当金は、株式分割が2012年4月1日に遡及して適用されたものとみなして換算しております。

※2: 業績の見通しの前提となる原油価格はプレント油価105米ドル/バレル、為替レートは100円/米ドルとして試算しております。



イクシスLNGプロジェクト陸上ガス液化プラントサイトにおけるLNGタンクの建設状況(2014年4月、ダーウィン)

03 事業環境及び2015年3月期の展望

わが国においては、原子力発電所の停止により、依然としてエネルギー分野のみならず日本の経済・産業活動や地球温暖化対策への取り組みなどに大きな影響が出ています。こうした中で、2014年4月に閣議決定された第4次エネルギー基本計画では、「多層化・多様化した柔軟なエネルギー需給構造」の実現が中長期的なエネルギー政策の基本方針に据えられ、今後、この具体化に向けた各種施策が講じられていくこととされています。

他方、国際的には、資源ナショナリズムの高まりやアジア新興国による積極的な資源獲得に向けた動きに加え、石油・天然ガスの探鉱・開発作業が深海部や極地など技術的に難しい地域にシフトしつつある状況などから、石油・天然ガス権益の確保を巡る競争は熾烈化し、探鉱・開発コストも上昇しています。また、いわゆるシェール革命によって世界的なエネルギー需給構造に変化が生じつつあり、石油・天然ガスの生産国及び消費国の双方に影響をもたらすとともに、石炭や石油化学など石油・天然ガス開発以外の産業にもその影響が波及しています。

このように、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しており、エネルギーの安定的かつ効率的な供給という当社グループの社会的使命は、か

つてないほど重要性が高まっているものと認識しております。

このような認識の下、2015年3月期（本年度）は「INPEX中長期ビジョン」の3年目として、成長目標の実現に向けてしっかりと取り組んでまいります。

まず当社グループの成長ドライバーでありますイクシスLNGプロジェクトについては、順調に進捗しており、本年は作業工程の半分を超え、さらなる進捗を見込んでおります。具体的には、沖合生産施設や陸上ガスプラントのモジュールの建造など前年度から継続している作業を着実に進めることに加え、生産井の掘削やガス輸送パイプラインの敷設などの作業を新たに開始する予定としており、安全に留意しながら着実に進めてまいります。

次に、アバディLNGプロジェクトについては、フローティングLNGのFEED作業を着実に進め、開発作業の実施に向けた検討を進めてまいります。また埋蔵量の増加を図るため、2013年6月から3坑の追加評価井及び1坑の試掘井の連続掘削を行っております。これまでのところ3坑の評価井の掘削作業を終了しており、本年には全ての掘削作業を完了する予定です。

イクシスLNGプロジェクト、アバディLNGプロ

ジェクトへの取り組みと同時に、その他の開発プロジェクト及び探鉱プロジェクトについても積極的に取り組んでまいります。具体的には、米国メキシコ湾ルシウス油田及び豪州コニストン油田では、本年度内に、原油生産を開始する予定です。また、生産プロジェクトであるアラブ首長国連邦ADMA鉦区などからの増産により、本年度の当社グループネット生産量は、前年度実績を上回る日量41.1万バレルを見込んでおります。探鉱プロジェクトとしては、イクシスの周辺鉦区、マレーシアなどのコアエリアを中心に、試掘井の掘削作業を計画しております。

当社グループは、今後も引き続き全ての事業を安全かつ順調に遂行させ、株主価値及び企業価値の持続的向上に向けて注力してまいります。



イクシスLNGプロジェクト建設作業員用宿泊サイト(2014年1月、ダーウィン)

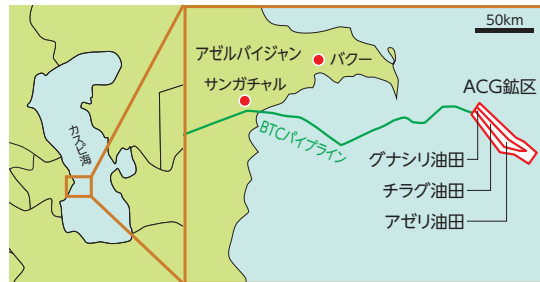
日本のエネルギー安定供給のために

世界のエネルギー需要は、長期的に拡大する見通しで、特に環境にやさしい天然ガスや再生可能エネルギーの利用拡大に多くの関心が集まっています。その一方、エネルギーを巡る国際情勢は近年、資源獲得競争の激化、原子力エネルギーを巡る議論や環境への配慮など、地球規模でさまざまな課題を抱え、大きな変化に直面しています。こうした中、当社グループは、日本のエネルギー自給率の向上に大きな役割を果たすとともに、経済成長、社会発展に貢献し、社会的にかけがえのない存在としてより一層評価される企業になることを目指しております。

ユーラシア A ACG鉱区

子会社インペックス南西カスピ海石油株式会社を通じて10.9644%の権益を保有するACG鉱区は、アゼルバイジャンの首都バクーから東方約100kmのカスピ海域に位置し、アゼリ油田、チラグ油田及びグナシリ油田の3油田から現在日量約60万バレルの原油生産を行っています。2014年1月より同鉱区からの追加的な生産として、「チラグオイルプロジェクト」からの原油生産を開始しました。

本鉱区から生産された原油は、バクー近郊のサンガチャルターミナルに送油され、当社が参加する原油輸送パイプラインプロジェクトであるBTCパイプラインを通じて、バクー近郊からグルジアのトビリシを経由してトルコのジェイハン(地中海沿岸)から輸出されています。



鉱区位置図



チラグオイルプロジェクト 生産プラットフォーム

米州 B ルシウス油田

2012年8月に、米アナダルコ社からメキシコ湾ルシウス油田の権益7.2%を取得しました。現在本プロジェクトでは、原油日量約8万バレルの生産能力を有する洋上生産施設の建設を行っており、本年後半に生産を開始する予定です。



ルシウス油田海上生産施設

中東・アフリカ C ADMA鉱区 ▶ プロジェクトの詳細はP10へ

アジア・オセアニア

D イクシスLNGプロジェクト

生産されるLNGの7割が日本へ

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体(オペレーター)として、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間840万トン(日本のLNG輸入量の約10%相当)のLNG(液化天然ガス)及び年間160万トンのLPG(液化石油ガス)として生産・出荷するとともに、FPSOなどから日量約10万バレル(ピーク時)のコンデンセートを生産・出荷する大規模なLNGプロジェクトです。

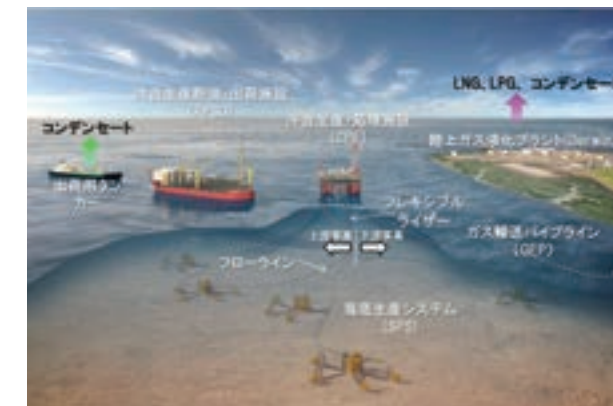


陸上LNGプラント(完成イメージ図)

当社は、1998年の公開入札により現在の鉱区の探鉱権を取得、2000年に試掘井にてイクシスガス・コンデンセート田を発見し、その後の評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。

既に、日本の電力・ガス会社を含むバイヤーとLNGの全量を販売する長期契約の合意がなされており、これにより生産するLNGの約7割が、日本に供給されることになります。

2012年1月の開発作業の開始から2年半が経過し、主要施設の建造・建設も目に見える形で進行していますが、引き続き、2016年末までに生産を開始すべく開発作業を実施します。



生産施設(完成イメージ図)

WEB

イクシスLNGプロジェクトの詳細は、特設サイトにてご確認ください。

<http://www.inpex.co.jp/ichthys/index.html>

日本のエネルギー安定供給へとつながる

(次ページに続く)

特集 海外・国内の主要プロジェクトの現況

日本 E 直江津LNG基地

天然ガスの安定供給に向けて

2009年より新潟県上越市にて建設工事を進めておりました直江津LNG基地が、2013年8月にLNG第一船を受け入れた後、主要設備の試運転を順次進め、予定より早い2013年12月に操業を開始しました。直江津LNG基地のLNG取扱能力は年間約150万トンであり、約500万世帯の年間消費量に相当する天然ガスを供給することが可能です。

将来的には当社が手掛けるイクシスをはじめとする海外のLNGプロジェクトからLNGを受け入れることにより、国産天然ガスと合わせて、当社の天然ガスパイプラインネットワーク沿線の需要家の皆様への供給能力と安定供給体制が一層強化され、当社中長期ビジョンで示した成長目標の一つである「ガスサプライチェーンの強化」が進展することとなります。



直江津LNG基地

再生可能エネルギーへの取り組み強化

■ 地熱発電

地熱発電とは、地下にあるマグマの熱エネルギーを蒸気として取り出し、その蒸気によりタービンを回し発電するものです。地熱発電は、発電時にCO₂の排出が少なく、また、他の再生可能エネルギーに比べて天候や季節の影響を受けずに安定して発電できることから、貴重なクリーンエネルギーとして注目されています。

当社は2011年から秋田県と北海道それぞれで地熱開発の共同調査に参加しており、2013年7月より地熱が蓄積する構造を確認するための調査井を掘削しています。このほか、2013年からは福島共同地熱調査に参加し、地表調査を開始しました。

「地下の資源を調査する」、「坑井を掘削する」といった地熱開発に求められる技術は、当社の石油・天然ガス事業のそれと共通しており、当社の技術的な強みや経験を活用することができます。今後、国内だけでなく、海外でも地熱開発の可能性を追求してまいります。



地熱発電用調査井の掘削風景

■ 太陽光発電

当社グループとして2件目の太陽光発電所を新潟県上越市に建設することを決定しました。

同発電所は、最大約2,000キロワット(2メガワット)の出力を有し、既存の太陽光発電所とあわせて、最大出力は約4,000キロワット(4メガワット)となります。同発電所は、本年7月より建設開始し、2015年8月の発電開始を予定しております。新設する2件目の発電所の年間予想発電量は一般家庭約860世帯分の年間電力消費量に相当し、地域のエネルギー供給に貢献してまいります。



完成イメージ図

フォーカスイン

中東・アフリカ ADMA鉦区 上部ザクム油田の権益期限延長

我が国のエネルギー長期安定供給に大きく貢献

子会社のジャパン石油開発株式会社(JODCO)を通じて12%の権益を保有する上部ザクム油田は、アラブ首長国連邦のアブダビ市北西約80kmの沖合に位置する巨大油田です。1978年からアブダビ国営石油会社(ADNOC)とJODCOが共同で開発作業に取り組み、1982年から生産を開始しました(ADNOCとJODCOの持分比率は88%:12%)。2006年には、エクソンモービル社(EM)がADNOCから権益の一部を譲り受ける形で参画しました。この間生産能力の拡大を続け、現在、上部ザクム油田はアブダビにおける主力油田の1つとなっております。

既存のアブダビ権益の期限延長については、かねてからアブダビ政府へ要請してきたところ、2026年3月9日に権益期限を迎える上部ザクム油田について、今般アブダビ政府が同油田の権益期限を2041年12月31日まで15年余延長し、さらに財務条件の改善を決定しました。

世界でも有数の巨大油田である上部ザクム油田は、アブダビの巨大油田の中でも生産開始が新しく、今後の生産能力拡大の余地が大きいと考えられます。

2041年末まで27年間もの長期にわたり上部ザクム油田権益を確保できたことは、当社グループの生産量の維持・拡大はもちろん日本のエネルギー安定供給に大きく寄与するなど、非常に大きな意義があります。

現在、JODCO、ADNOC及びEMのプロジェクトパートナーは、日量75万バレルの生産能力達成に向けて人工島をベースとした開発作業を進めております。

さらに、この生産能力を日量100万バレルまで引き上げるべく、開発検討作業を実施する計画です。



鉦区位置図



ADMA鉦区 上部ザクム油田生産施設(人工島)

社員が紹介するイクシスLNGプロジェクトの今

日本企業で初めて操業主体として事業を推進する イクシスLNGプロジェクト ~コジェ編~



イクシスLNGプロジェクトは、当社グループが操業主体として開発作業を進めている大型LNGプロジェクトです。2016年末までに天然ガスを生産し、LNG、LPG、コンデンセートとして出荷する予定です。



コジェ事務所 佐藤 顕
係留システムエンジニア/インターフェイスコーディネーター

コジェ事務所は、イクシスのコントラクターである韓国のサムスン重工業造船所内にあり、本プロジェクトの主要施設の一つである半潜水式海上生産施設「沖合生産・処理施設(CPF: Central Processing Facility)」の設計、機器・資材調達、建造・建設管理を行っています。



◀ CPFの組み立て開始セレモニー
(2014年4月、韓国)



CPF 建造風景



プロジェクトは生き物のようです。常に化する状況、関わっている人の数、動いている金額を思うと、時には大変な局面もありますが、ダイナミックに進行するプロジェクトに自分も貢献しているという思いは、大きなやりがいにつながっています。

■ CPFとは

CPFとは、イクシスガス・コンデンセート田から産出された生産物を、ガスとコンデンセートなどに分離する処理などを行う施設であり、CPFにて分離されたガスは、総延長約889キロメートルのガス輸送パイプラインにより、オーストラリア北部準州のダーウィンに現在建設中の陸上ガス液化プラントに輸送され、液化工程などを経て、LNG、LPGとして出荷されます。



CPFの完成予想イメージ図

■ 世界最大のCPFの組み立てを開始

2014年4月3日にイクシスのCPFの本格的な組み立て作業を開始しました。イクシスのCPFは、日量最大16億5,700万立方フィートのガスの処理が可能で、大きさは約150メートル×約110メートル、総排水量は約14万トンであり、半潜水式海上生産施設としては世界最大です。



CPF 建造風景

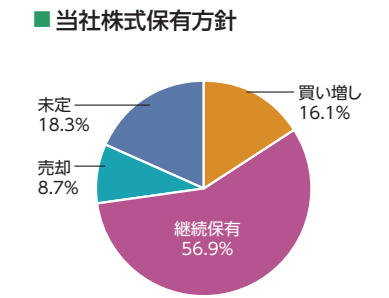
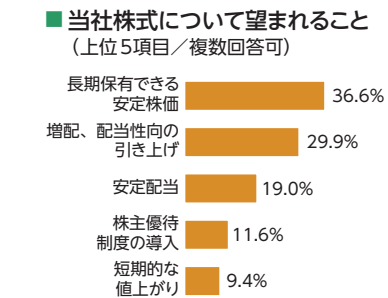
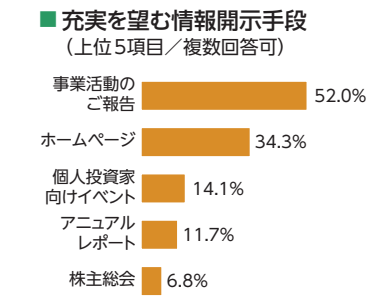
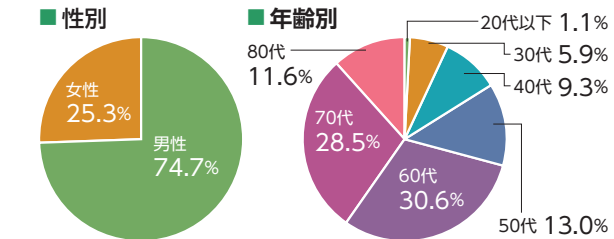
インフォメーション

株主アンケート結果のご報告

昨年12月にお送りいたしました「事業活動のご報告(中間)」において、2013年9月30日現在の株主の皆様へアンケートをお願いいたしました結果、5,313名(ハガキ5,100通、ウェブ213件)の方からご回答をいただきました。

本紙面を通じて御礼申し上げますとともに、集計結果の一部を掲載いたします。

いただきました貴重なご意見・ご要望を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動の参考とさせていただきます。今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



アンケート返信通数に応じて寄付を行いました。当社CSR活動の一環として実施しております、アンケート返信通数に応じた寄付につきましては、160,800円を「公益信託 日本経団連自然保護基金」に、また370,500円を「日本赤十字社 東日本大震災義援金」に、それぞれ寄付させていただきました。

日経アニュアルレポートアワード「優秀賞」の受賞

当社のアニュアルレポート2013が、日本経済新聞社主催の「第16回日経アニュアルレポートアワード」で優秀賞(上位3社)を受賞しました。

アニュアルレポート2013の制作にあたっては、投資家の方々をはじめとする全てのステークホルダーに幅広くお読みいただき、一層当社への理解が深まるよう、内容・デザインに工夫をいたしました。「経営トップからのメッセージ」では関心の高いシェール

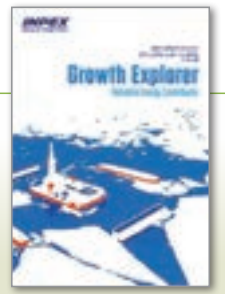
ガスなどについて具体的に記載し、「特集」ページでは、当社の大型天然ガスプロジェクト(イクシスLNGプロジェクト)や非在来型資源への取り組みを盛り込みました。

今回の受賞を励みに、引き続き、投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様にとって判りやすい情報を適時・適切・公平に開示してまいります。

WEB

アニュアルレポート2013は、当社ウェブサイトでもご覧いただくことができます。ご希望により、冊子の送付も行っております。

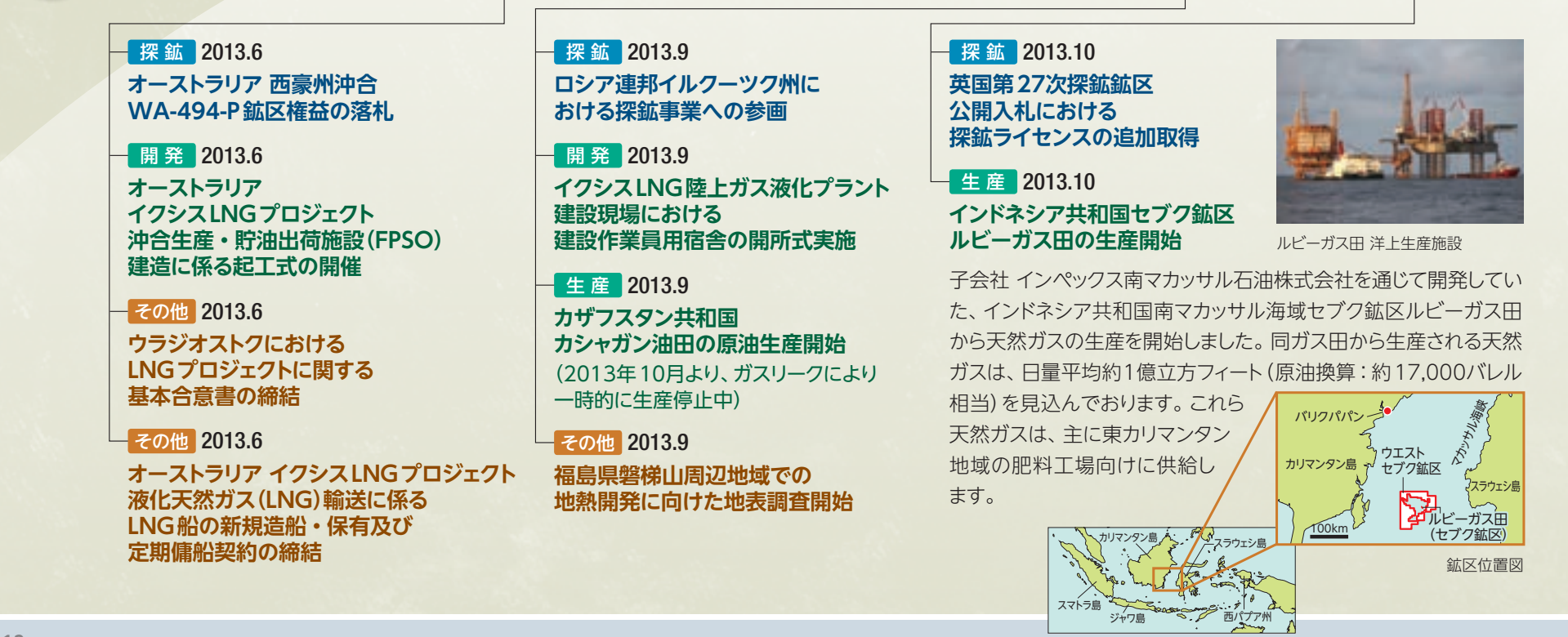
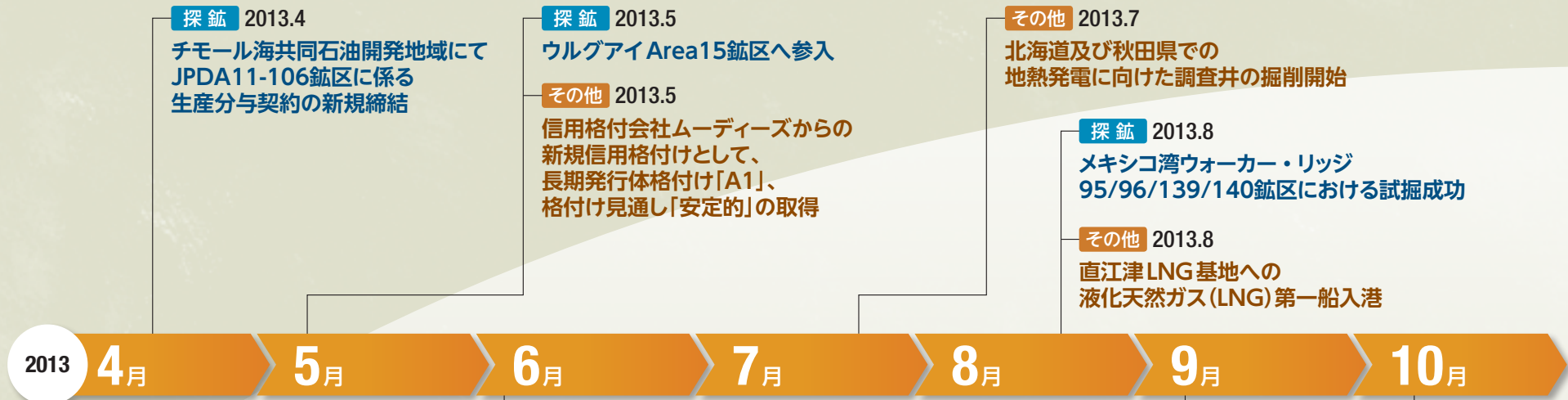
<http://www.inpex.co.jp/annualreport>



トピックス



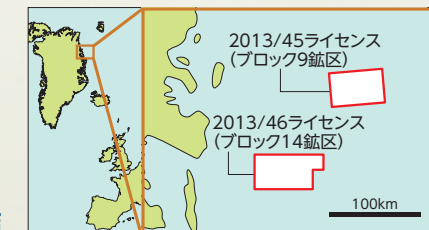
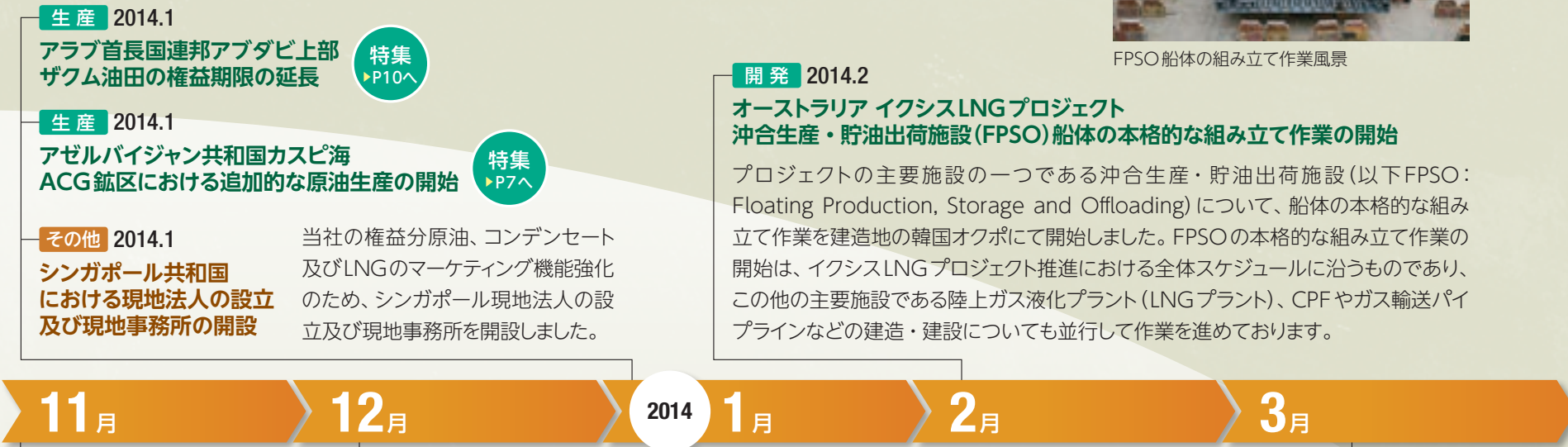
FPSO 船体の組み立て作業風景



ルビーガス田 洋上生産施設



鉱区位置図



鉱区位置図



鉱区位置図



直江津 LNG 基地

生産 2014.1 アラブ首長国連邦アブダビ上部ザクム油田の権益期限の延長

特集 P10へ

生産 2014.1 アゼルバイジャン共和国カスピ海 ACG 鉱区における追加的な原油生産の開始

特集 P7へ

その他 2014.1 シンガポール共和国における現地法人の設立及び現地事務所の開設

当社の権益分原油、コンデンサート及び LNG のマーケティング機能強化のため、シンガポール現地法人の設立及び現地事務所を開設しました。

開発 2014.2 オーストラリア イクシス LNG プロジェクト 沖合生産・貯油出荷施設 (FPSO) 船体の本格的な組み立て作業の開始

プロジェクトの主要施設の一つである沖合生産・貯油出荷施設 (以下 FPSO: Floating Production, Storage and Offloading) について、船体の本格的な組み立て作業を建造地の韓国オクポにて開始しました。FPSO の本格的な組み立て作業の開始は、イクシス LNG プロジェクト推進における全体スケジュールに沿うものであり、この他の主要施設である陸上ガス液化プラント (LNG プラント)、CPF やガス輸送パイプラインなどの建造・建設についても並行して作業を進めております。

その他 2013.11 カナダ シェールガス LNG 事業化に関する調査権の取得

子会社 インペックスガスブリティッシュコロンビア社を通じて、オペレーターであるネクセン社及び日揮株式会社とともに、カナダのブリティッシュ・コロンビア州 (BC 州) 西部の太平洋岸グラッシーポイントにおいて、シェールガスプロジェクトから産出されたガスを原料とした陸上ガス液化プラント (LNG プラント) 建設の可能性を検討する調査権を BC 州政府より取得しました。また、2013年11月にカナダ エネルギー委員会 (NEB) へ LNG 輸出許可申請を提出し、2014年5月に NEB より輸出ライセンスを取得しました。

その他 2013.12 「直江津 LNG 基地」の操業開始

2009年より新潟県上越市にて建設工事を進めておりました液化天然ガス (LNG) 受入基地 (「直江津 LNG 基地」) の操業を開始しました。

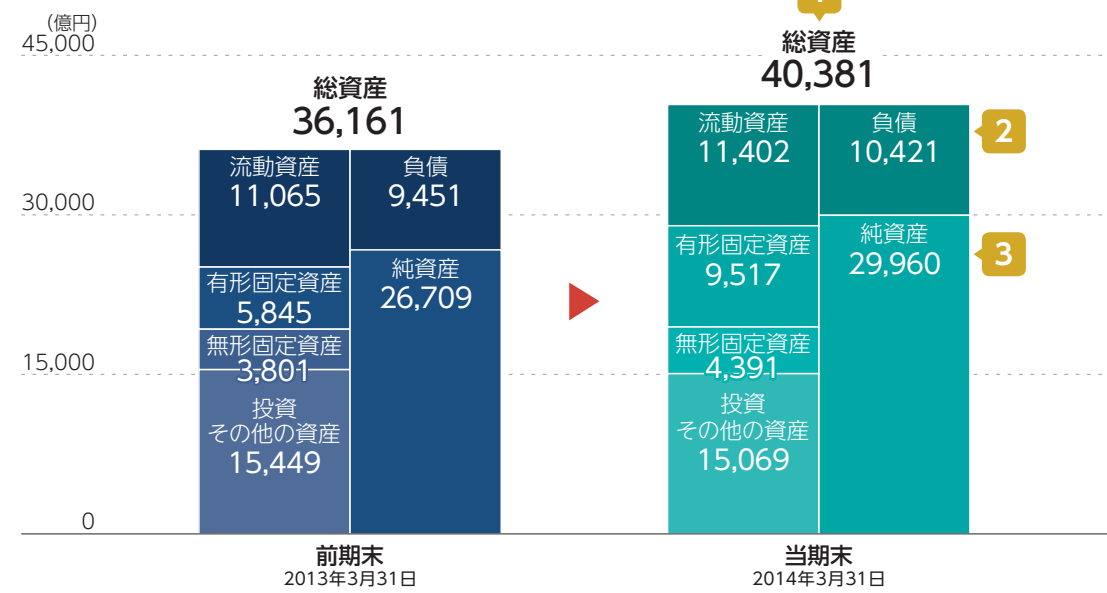
その他 2014.3 太陽光発電所の建設決定

その他 2014.3 女性活躍推進企業として、平成 25 年度「なでしこ銘柄」に選定

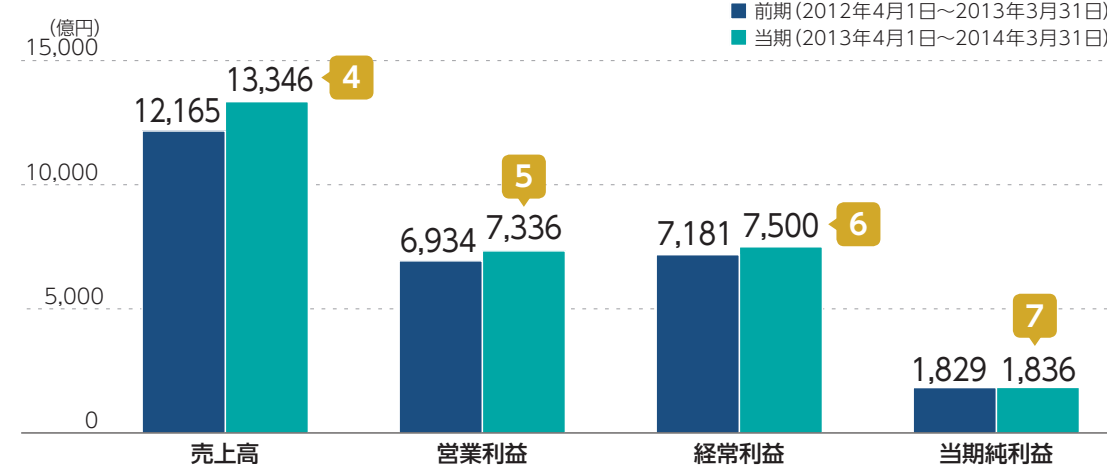
特集 P9へ

連結財務諸表(要約版)

連結貸借対照表の概要



連結損益計算書の概要



POINT

- 総資産は4兆381億円で、前期末比**4,219億円**の増加となりましたが、その主な要因は設備投資による有形固定資産、無形固定資産などの増加です。
- 負債は1兆421億円で、前期末比**969億円**の増加となりましたが、その主な要因は長期借入金などの増加です。
- 純資産は2兆9,960億円で、前期末比**3,250億円**の増加となりましたが、その主な要因は当期純利益の計上や円安による為替換算調整勘定などの増加です。
- 当期の売上高は1兆3,346億円で、前期比**1,180億円**の増加となりましたが、その主な要因は、期中平均為替レートが円安で推移したことなどです。
- 営業利益は7,336億円で、前期比**401億円**の増加となりましたが、その主な要因は売上高の増加です。
- 経常利益は7,500億円で、前期比**319億円**の増加となりましたが、その主な要因は前期に計上した権益譲渡益が剥落した一方、営業利益が増加し、為替差損が減少したことなどです。
- 当期純利益は1,836億円で、前期比**7億円**の増益となりました。

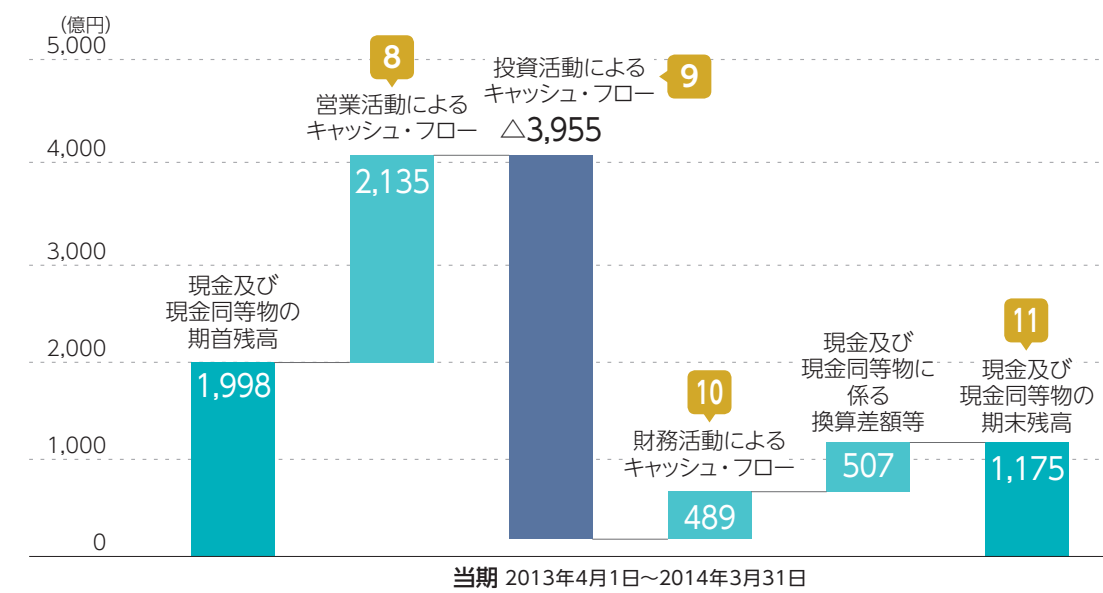
詳しくは

INPEX IR

検索

詳しくはこちらのアドレスよりご覧ください。 <http://www.inpex.co.jp/ir/financial/index.html>

連結キャッシュ・フロー計算書の概要



主要財務指標

収益性 ▶ 純使用総資本利益率(ネットROACE)^{*1}前期 11.2% ▶ **8.6%**

当期純資産と純有利子負債による利益率を示すネットROACEは、いわばプロジェクト投資額に対するリターン率ですが、当期はその他の包括利益累計額等の増加による自己資本の増加を背景として、前期比2.6ポイント低下の8.6%となりました。

安全性・健全性 ▶ 自己資本比率^{*2}前期 68.6% ▶ **69.1%**

自己資本比率50%以上を確保することを当社の目標数値としており、当期は負債が増加した一方、円安によりその他の包括利益累計額が増加したことから、自己資本比率は前期末比0.5ポイント上昇の69.1%となりました。

安全性・健全性 ▶ 純有利子負債/純使用総資本比率^{*3}前期 -43.9% ▶ **-31.9%**

純有利子負債/純使用総資本比率は12ポイント上昇の-31.9%となりましたが、引き続き高い財務安定性を維持しながら、今後の設備投資への備えを着実に進めています。なお、当社の長期的な財務レバレッジ水準は、本比率20%以下を目安としています。

*1:純使用総資本利益率(ネットROACE) = (当期純利益+少数株主損益+(支払利息-受取利息)×(1-実行税率)) / (純資産及び純有利子負債)の期初と期末の平均値

*2:自己資本比率 = (純資産-少数株主持分) / 総資産

*3:純有利子負債/純使用総資本比率 = (有利子負債-現金及び預金-国債・地方債・社債等(時価のあるもの)-MMF等-長期預金) / (純資産+有利子負債-現金及び預金-国債・地方債・社債等(時価のあるもの)-MMF等-長期預金)

会社概要 (2014年6月25日現在)

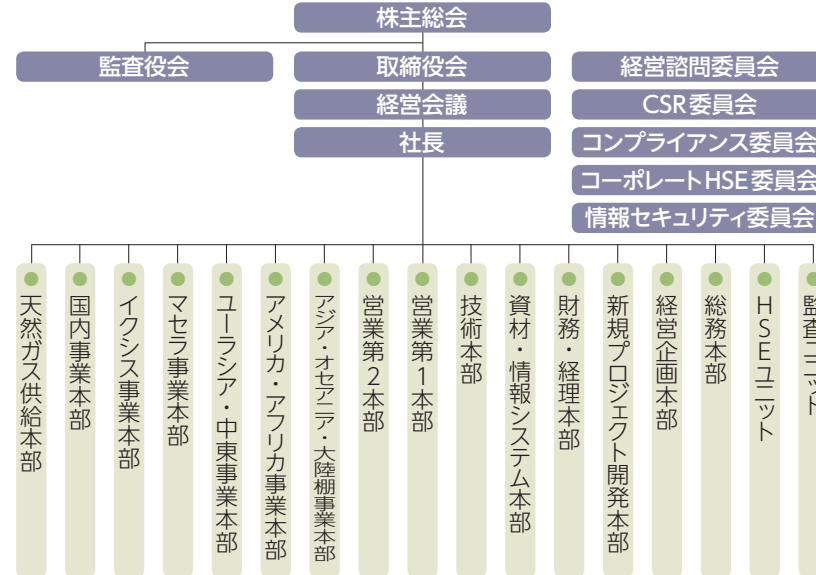
■ 会社概要

社名	国際石油開発帝石株式会社 INPEX CORPORATION
本社	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー (総合受付:32階)
設立	2006(平成18)年4月3日
資本金	2,908億983万5,000円
従業員数	2,874人(連結) ※2014年3月31日現在
事業内容	石油・天然ガス、その他の鉱物資源の調査、探鉱、開発、生産、販売及び同事業に付帯関連する事業、それらを行う企業に対する投融資
URL	http://www.inpex.co.jp/
主な事業所	国内事業所 東京、秋田、新潟、千葉 グループ 米国、カナダ、英国、ブラジル、ベネズエラ、スリナム、マレーシア、オーストラリア、インドネシア、シンガポール、アラブ首長国連邦(UAE)、ノルウェー

■ 取締役・監査役

代表取締役会長	黒田 直樹
代表取締役副会長	技術統括、HSE及びコンプライアンス担当 梶岡 雅俊
代表取締役社長	北村 俊昭
取締役 副社長執行役員	経営企画本部長 由井 誠二
取締役 専務執行役員	技術本部長 佐野 正治
取締役 常務執行役員	マセラ事業本部長 菅谷 俊一郎
取締役 常務執行役員	財務・経理本部長 村山 昌博
取締役 常務執行役員	イクシス事業本部長 伊藤 成也
取締役 常務執行役員	総務本部長 田中 渡
取締役 常務執行役員	天然ガス供給本部長 池田 隆彦
取締役 常務執行役員	新規プロジェクト開発本部長 倉澤 由和

■ 組織図



取締役(非常勤)	若杉 和夫	常勤 監査役	高井 義嗣
取締役(非常勤)	香川 幸之	常勤 監査役	戸恒 東人
取締役(非常勤)	加藤 晴二	常勤 監査役	角谷 講治
取締役(非常勤)	外池 廉太郎	監査役(非常勤)	佐藤 弘
取締役(非常勤)	岡田 康彦	監査役(非常勤)	船井 勝

※1: 取締役 若杉和夫、同 香川幸之、同 加藤晴二、同 外池廉太郎及び同 岡田康彦の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

※2: 監査役 戸恒東人、同 角谷講治、同 佐藤弘及び同 船井勝の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

※3: 当社は、取締役 若杉和夫、同 香川幸之、同 加藤晴二、同 外池廉太郎、同 岡田康彦、監査役 戸恒東人、同 角谷講治、同 佐藤弘及び同 船井勝の計9名を、株式会社東京証券取引所が定める独立役員として届け出ております。

株式の状況 (2014年3月31日現在)

■ 株式の状況

発行可能株式総数

普通株式	3,600,000,000株
甲種類株式	1株

株主数及び発行済株式の総数

普通株式	39,546名/1,462,323,600株
甲種類株式*	1名(経済産業大臣) / 1株

* 当社定款においては、経営上の一定の重要事項の決定について株主総会または取締役会の決議に加え、甲種類株主総会の決議が必要である旨が定められております。

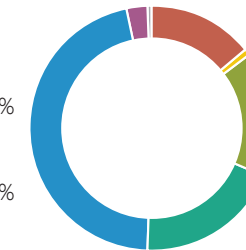
■ 大株主(普通株式)の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)*
経済産業大臣	276,922,800	18.94
石油資源開発株式会社	106,893,200	7.31
三井石油開発株式会社	53,154,000	3.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	45,528,500	3.11
JXホールディングス株式会社	43,810,800	3.00
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	41,004,300	2.80
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	40,224,357	2.75
シービーニューヨークオービスファンズ	28,738,943	1.97
ジェーピー モルガン チェース バンク 385632	21,032,265	1.44
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	19,446,693	1.33

* 発行済株式総数(普通株式)に対する割合

■ 株式の分布状況※1

金融機関 (信託口を含む) 14.08%	人数 : 106名 株式数 : 205,871,300株
証券会社 0.88%	人数 : 48名 株式数 : 12,812,864株



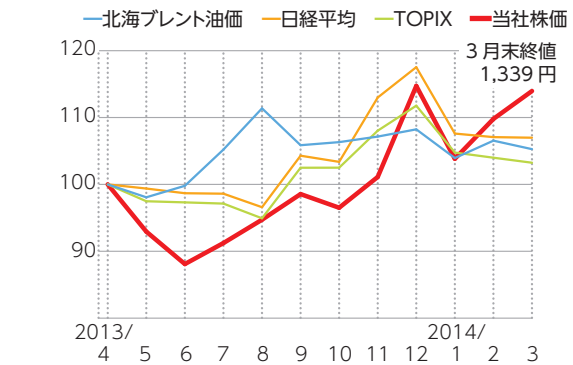
その他国内法人 16.69%	人数 : 405名 株式数 : 244,083,824株	外国法人等 46.41%	人数 : 691名 株式数 : 678,718,803株
自己名義株式 0.13%	人数 : 1名 株式数 : 1,966,400株	経済産業大臣※2 18.94%	人数 : 1名 株式数 : 276,922,800株
個人その他 2.87%	人数 : 38,294名 株式数 : 41,947,609株		

※1: 割合は株式数の発行済株式総数(普通株式)に対する割合であります。

※2: 経済産業大臣の保有株式数には、甲種類株式は含まれておりません。

■ 株価と主要指標との比較 (2013年4月~2014年3月)

2013年4月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月開催
- 基準日 定時株主総会 3月31日
その他必要があるときは
予め公告して設定します。
- 配当金受領 期末配当 3月31日
株主確定日 中間配当 9月30日
- 公告方法 日本経済新聞に掲載する
方法により行います。
- 上場金融商品取引所 東京証券取引所(市場第一部)
- 売買単位 100株
- 株主名簿管理人・ 特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部

株式に関するお手続きのご案内

■ お取扱窓口

証券会社などに口座をお持ちの場合、住所変更などの各種お手続きは、口座を開設されている証券会社などにてお願いいたします。
証券会社などに口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)には、下記のお取扱店にてお取扱いたします。
なお、支払明細の発行、未払配当金及び未払交付金等に関するお手続きにつきましては、みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■ お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-288-324(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

■ お取扱店

みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店

* 未払配当金及び未払交付金等につきましては、株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 ☎0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。